

新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

第三十四話

「名跡探訪」大狩部の御野立所 (要約文)

大狩部の太平洋を望む高台に、「御野立所公園」という名跡があります。この場所には、いくつかの歴史や伝説が隠されています。

明治42年、韓国皇太子が内閣総理大臣もつとめた伊藤博文公とともに、御料牧場（軍馬を育成するための牧場）を視察のため新冠に訪れます。その際に休憩されたのがこの大狩部の高台です。明治44年には、皇太子時代の大正天皇陛下が同じく御料牧場視察の際に大狩部の高台で休憩されています。太平洋の景色に目を細めながら、約30分間休憩されたといえます。この時に、日新小学校（今の新冠小学校）の児童がお茶を出しました。昭和28年には、義宮殿下（現常陸宮親王）がこの高台で休憩されています。このように、皇室の方が訪れた由緒ある場所であることから、「御野立所」と呼ばれています。そのため、「行啓記念碑」が公園内に建立されています。

御野立所の高台から太平洋を眺めていると、岩が波に打たれて見え隠れしているのがわかります。この岩は、昔から「トド岩」と親しみを込めて呼ばれています。この呼び名の通り、この岩にはかつて多くのトドが息

していました。昭和30年代にトドによる漁業被害があったことから、全面的に駆除されました。その後、今は一匹も姿を見せなくなりましたが、わずかに残る小さな岩だけがその名残をあらわしています。御野立所には、トドを供養するための「海馬供養記念碑」が建立されました。このトド岩には、アイヌの姉妹にまつわる伝説も残されています。教育委員会では、このお話を知ってもらい、アイヌ文化の理解を図ろうと、看板にして御野立所に掲げて紹介しています。

明治時代、新冠で由緒ある名勝地として「判官館」、「水川神社」、そしてこの「御野立所」の三つがあげられました。近年、大狩部の自治会がこの御野立所を含む付近の各所にサクラの苗木を植えました。地元の方がこの地を大切にしてくれていることは、とても喜ばしいことです。



「大狩部御野立所公園」

「コロナ禍での救急講習会を受講してみませんか」

消防署新冠支署ではコロナ禍での救急講習会を開催しています。
感染リスクを軽減する心肺蘇生法を地域や職場の方達と一緒に学んでみませんか。
まずは、お気軽に相談してください。 消防署新冠支署 ☎ 47-2666

火災・救急出動状況 () かつこ内は前年同期			
区分	火災件数	救急件数	
4月	1件 (0件)	25件 (20件)	
3年1~4月	1件 (0件)	102件 (83件)	
交通事故発生状況 () かつこ内は前年同期			
区分	発生件数	死者	傷者
4月	0件 (0件)	0人 (0人)	0人 (0人)
3年1~4月	3件 (1件)	1人 (0人)	2人 (1人)

人のうごき

(4月末現在)

人口 5,329人 (前月比 + 4人)
男 2,616人 (前月比 + 2人)
女 2,713人 (前月比 + 2人)
世帯 2,767世帯 (前月比 + 12世帯)